

## 歳入

市税は団塊世代の退職者の増および個人所得の伸び悩みなどにより前年度比2.3%減の68億298万円、地方交付税は地域再生対策費などにより同2.8%増の90億7,000万円、国・県支出金は同5.8%増の51億7,175万円、基金等繰入金は、同20.2%減の17億6,231万円を見込んでいます。

## 歳出

### 1.人と自然が共生する「しぜん感動・創造都市」

- 官庁街通り野外芸術文化ゾーン整備事業 ……4億7,648万円  
官庁街通りに芸術文化の要素を導入し、通りの空間をひとつの美術館のように見立てて活用することにより、景観、環境を守るとともに、地域の活性化を創出することを目指した「官庁街通り野外芸術文化ゾーン整備事業」としてアート広場などを整備する。
- 道路維持、新設改良、舗装整備 ……5億1,724万円  
側溝整備や冬期交通確保のための除雪などの道路維持、新設改良および舗装整備を行い、車両と歩行者に安全で良好な道路環境を提供する。
- 高森山総合運動公園の整備 ……4億6,010万円  
事業認可区域(整備面積31.4ha)を基に、全面供用に向けて整備を行っており、本年度も引き続きサッカー場などを整備する。

### 2.豊かな心をはぐくむ「こころ感動・創造都市」

- 十和田市現代美術館事業 ……2,332万円  
4月26日開館に伴い、オープニングイベントおよび企画展を実施し、国内外へ開館宣伝と市民へ現代アートの理解を図る。
- 西小学校建設事業 ……7億3,923万円  
現在の校舎は昭和37年建築、体育館は昭和38年に建築され、建築後45年を経過し老朽化が著しいため、文部科学省の補助事業を活用して新築する。
- 学校施設耐震化整備事業 ……3,363万円  
昭和56年以前に建築され、現在の耐震基準を満たしていないと考えられる市立学校施設の耐震診断を実施する。また、耐震診断結果に基づき、総合的に勘案し、学校別に耐震補強または改築などを決定する。
- 学力向上対策事業 ……3,121万円  
市内小・中学校の児童生徒の学力向上のため、特別支援教育支援員派遣事業やアシスタントティーチャー派遣事業などを実施する。

### 3.安心・安全を支える「くらし感動・創造都市」

- セーフコミュニティ推進事業 ……273万円  
事故やケガは、偶然の結果ではなく予防できるという理念のもと、行政と多くの市民・各種団体との協働により、WHO(世界保健機関)の定めるセーフコミュニティの認証指標に基づいた事業を推進し、市民すべてが安心で安全に暮らせるまちづくりを進める。
- 妊婦委託健康診査事業 ……2,818万円  
本市における産科医不足により増加した妊婦の負担軽減を図るとともに、妊娠早期から妊婦健康診査の受診向上を図り、未熟児の出生防止、乳児死亡の減少を図る。
- 西小学校仲よし会館改築 ……3,370万円  
仲よし会は、放課後において家庭に保護者のいない小学校1・2年生児童の健全育成を図るため、指導員による指導を実施している。市内8カ所に開設中のひとつである西小学校仲よし会は、これまで校舎の一部を利用してきたが、校舎の改築に伴い解体されるため、改築する。
- 後期高齢者医療事業 ……4億8,903万円  
平成20年度から施行されている「後期高齢者医療制度」に伴い、青森県内全市町村が加入する青森県後期高齢者医療広域連合が保険者となる。市においては、保険料徴収、窓口業務(被保険者証などの引き渡しや各種届出の受理)を行う。

# 感動・創造都市

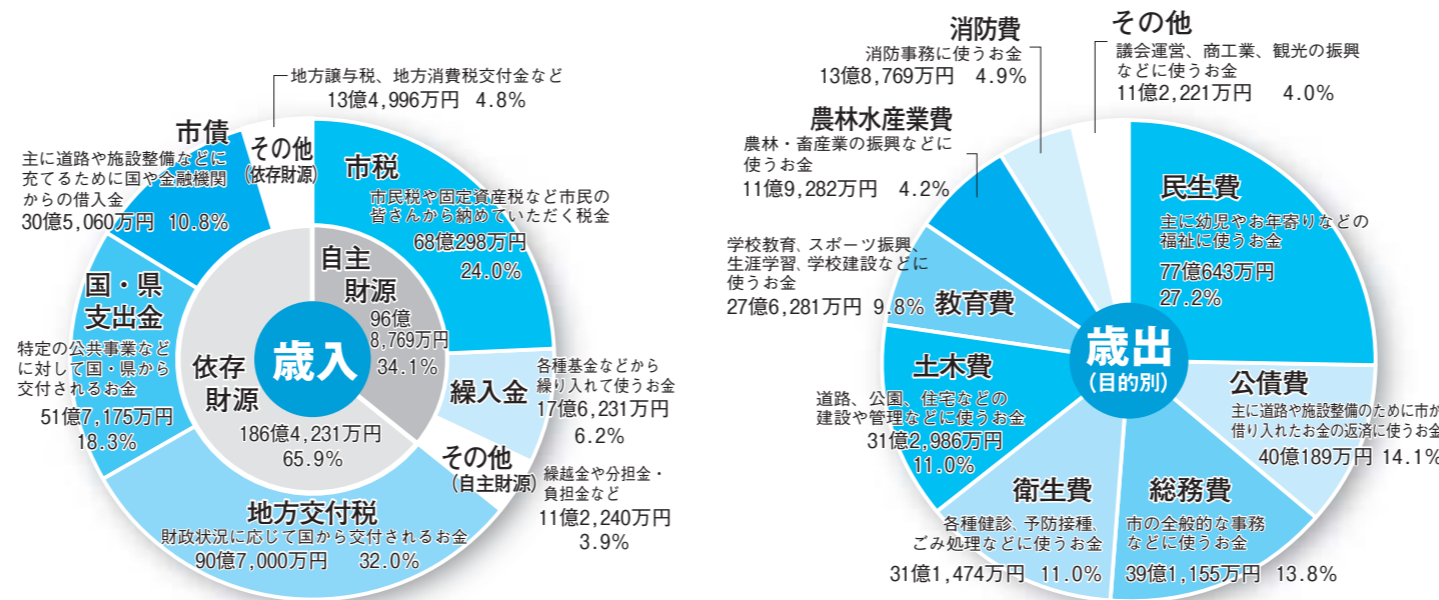
～人が輝き 自然が輝き まちの個性が輝く理想郷～

## 平成20年度 一般会計当初予算

平成20年度の一般会計当初予算は、283億3,000万円で、前年度当初予算に比べて2億8,500万円、率にして1.0%の減になっています。  
平成20年度当初予算編成に当たっては、厳しい財政環境のもとに、将来の都市像である「感動・創造

都市～人が輝き 自然が輝き まちの個性が輝く理想郷～」実現のため、「第1次十和田市総合計画」に基づき、各種重点施策・事業の推進を図るため、限られた財源の効果的な活用や経費削減、施策選択、事業見直しなどを行いました。

283億3,000万円の内訳(1万円未満は四捨五入)



## 予算用語の解説

- ◆一般会計 教育、福祉、道路の整備など十和田市の基本的な事務・事業に関する会計です。特別会計および企業会計に属さないすべての歳入・歳出が該当になります。
- ◆特別会計 特別の事業を行う場合や特定の歳入を特定の歳出に充てるなど一般会計と区別する必要がある場合に設置する会計です。平成20年度は6つの特別会計があります。
- ◆企業会計 企業的な性格を持った事業を運営するために設置された地方公営企業の会計です。十和田市には、水道事業、下水道事業および病院事業の3つの企業会計があります。
- ◆自主財源と依存財源 市税や市の施設を使用したときの使用料など、市が自主的に収入できる財源を「自主財源」といいます。「依存財源」とは、地方交付税、地方譲与税、各種補助金などのように、国や県から交付される財源をいいます。

## 各会計予算

会計名	予算額	前年比	増減率(%)	
一般会計	283億3,000万円	△2億8,500万円	△1.0%	
特別会計	国民健康保険事業	76億6,423万円	6,371万円	0.8%
	地方卸売市場事業	1,883万円	△641万円	△25.4%
	老人保健	7億9,504万円	△44億6,359万円	△84.9%
	介護保険事業	52億9,102万円	2億7,470万円	5.5%
	温泉事業	5,479万円	△1,521万円	△21.7%
	後期高齢者医療	4億8,903万円	4億8,903万円	皆増
企業会計	水道事業	52億8,807万円	12億5,253万円	31.0%
	下水道事業	61億6,944万円	2億7,600万円	4.7%
	病院事業	106億422万円	△63億5,520万円	△37.5%

※企業会計については、収益的支出と資本的支出の合計額です。

### 4.にぎわいと活力あふれる「しごと感動・創造都市」

- 「冬の農業」産地拡大施設整備事業 ……240万円  
収益性の高い施設栽培を普及・拡大するため、耐雪型の栽培ハウスを導入する農業協同組合に助成し、通年栽培による継続出荷により有利販売に努めて、冬の農業を推進し農家の所得向上を図る。
- グリーンツーリズム事業 ……882万円  
農業体験や農家民宿などのグリーンツーリズム関連の需要は、ますます拡大傾向になってきている。そこで、グリーンツーリズムのPR活動および受け入れ農家の講習会を実施するとともに、アジア地域へ教育旅行の誘致に取り組む十和田市新幹線開業効果活用推進協議会へ助成する。
- 観光施設整備事業 ……5,546万円  
老朽化の著しい、十和田湖温泉スキー場のリフト機械整備および宇樽部キャンプ場のケビン、バンガロー解体工事などを実施する。
- 中心市街地活性化推進事業 ……1,377万円  
中心市街地の活力とにぎわいを取り戻すことを目的とした「中心市街地活性化基本計画」を策定するため、全国中心市街地活性化推進協議会や十和田商工会議所との連携を密にし、計画策定事務を円滑に進めるとともに、中心市街地活性化協議会設立に向けた十和田商工会議所の事業を支援する。

### 5.いきいきと活躍できる「しみん感動・創造都市」

- 「(仮称)教育・福祉総合プラザ」基本設計 ……2,444万円  
教育および福祉活動の拠点施設として整備を予定している「(仮称)教育・福祉総合プラザ」について平成19年度に策定した基本計画に基づき、プロポーザル方式により設計者を選考し、施設の基本設計業務を委託する。
- いきいきまちづくり活動推進 ……51万円  
自らの地域に対する誇りと愛着をはぐくみ、地域住民の創意工夫による自発的で主体的なまちづくりを行う町内会や子ども会などを支援する。
- 第42回全日本高等学校馬術競技大会開催補助事業 ……80万円  
馬術を通じて、全国の高校生の心身の鍛錬と資質の向上に寄与することを目的に開催されてきた全日本高等学校馬術競技大会を、三本木農業高等学校において、7月に開催する。

### 6.行財政改革および広域行政の推進

- 事務事業評価 ……14万円  
市の行う事務事業を行政および市民が数値を用いて客観的に評価、公表および成果の検証と改善を継続することにより、効率的な行財政運営に資するため実施する。
- 公的資金の補償金免除繰り上げ償還 ……1億4,927万円  
国の特例措置を活用し、過去に借り入れた高金利(利率5%以上)の市債を繰り上げ償還および借り換えすることにより、利子負担の軽減を図る。
- 新電算システム導入業務 ……1億9,434万円  
システムの拡張性と運用経費の節減などを図るため、平成19年度に総合評価方式によって決定したオープン系の統合型行政パッケージシステムを導入し、利便性および安全性を確保しながら信頼性の維持に優れた電算システムを構築する。
- 十和田市水道整備計画の策定 ……1,000万円  
現在、国では経営基盤が脆弱な簡易水道に対する支援制度を維持しつつ、経営改善のための簡易水道の統合を進める施策をとっている。安心・安全な水の供給を図るため、国の施策にのっとり上で、老朽化の進んでいる簡易水道と上水道を統合する十和田市水道整備計画を策定する。

問い合わせ先 財政課 (☎235111内線173)